（別紙様式）　　（Ａ３判横）

令和４年度　学 校 自 己 評 価 シ ス テ ム シ ー ト （ 富士見高等学校 ）W20

目 指 す 学 校 像	規律ある落ち着いた環境で、生徒一人一人にきめ細やかに指導を行い、地域に開かれ信頼される学校

重　点　目　標	1　生徒理解に基づきながら、「明るく挨拶」「身だしなみを整える」「時間を守る」を基礎とした、基本的生活習慣の確立と規範意識の向上を図り、豊かな人間性と社会性を育む。 2　きめ細やかな学習指導・進路指導を行い、確かな学力を育成するとともに、生徒一人一人の進路希望を実現させる。 3　学校行事や部活動等及び地域貢献を通じて、社会の一員としてたくましく生き抜く体力と気力を育む。

達成度		
	A	ほぼ達成（８割以上）
	B	概ね達成（６割以上）
	C	変化の兆し（４割以上）
	D	不十分（４割未満）

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者　学校関係者　３名
　　生徒　４名
　　事務局（教職員）　６名

※　重点目標は３つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
※　番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価								学校関係者評価
年度目標					年度評価（２月１日　現在）			実施日　令和　５年　２月　７日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善等	学校関係者からの意見・要望・評価等
1	〔現状〕 全教職員の共通理解の下、規範意識の向上と基本的生活習慣の確立に向けた取組みが生徒に浸透している。 〔課題〕 ・ほとんどの生徒は学校の指導には従えるので、さらに自ら考え行動できる人物へと成長させる。 ・生徒の人間性、社会性を育て、対人関係スキルを身に着ける。 ・心や家庭の悩みを抱える生徒に対する相談を行い、実りある学校生活を送らせる。	①基本的生活習慣の確立を更に進める。 ②対人コミュニケーション能力を高める。 ③教育相談の情報の共有を行い、学校全体で生徒を支援する。	①全教職員と保護者と連携による積極的な生徒指導を行い、生徒を成長させる。 ②学習指導、生徒指導そして進路指導を通して生徒の情報収集能力、情報発信能力を高める。 ③スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等を活用し、また外部機関と連携し、生徒・保護者の教育相談の情報を学校教職員で共有し、生徒を支援していく。	①遅刻者・欠席者・早退者数・問題行動による指導件数・転退学者数の減少。 ②生徒アンケートによる。 ③相談件数に対する情報の共有の割合。	①遅刻者・欠席者・早退者数は増加、問題行動による指導件数は同数、転退学者数は減少した。 ②対話的な授業を行っていると思う生徒が各学年７０％以上、プレゼン能力向上に対しては、各学年５０％程度が肯定的である。 ③延べ８０件の相談があり、教育相談担当は、カウンセラー等との対面での情報共有を行い、管理職では書面での情報共有を行っている。	B	①日頃よりの担任を始めとした、教員全体での生徒把握が更に必要である。コロナの影響か、生徒の欠席等に関する意識が低くなっている。これを改善する。 ②教員間の授業公開を更に進める。 ③カウンセラー等の情報共有を更に進める。	・生徒に対し全体的に良い印象を抱いている。各自がエッセンスを持つことが大事である。生徒自身から気づき、目的を考えてもらいたい。 ・在学時代と比べて雰囲気が良い ・先生方の働き掛けが我が子を良い方向に動かしてくれまた。 ・将来から逆算した指導をするべきである。
2	〔現状〕 生徒の取組は前向きであり、スタディサプリの取組状況は全県１位、全国でもトップクラスである。進路指導部を中心にきめ細やかな指導を実施し、一人一人の進路希望実現を果たしている。 〔課題〕 ・特進クラスの効率的な運用を進める。 ・学びもれの穴を埋めとともに、「伸びる超える瞬間」を経験させる。 ・生徒一人一人の高い志による志望進路実現する。	①特進クラスの有効性を高める。 ②生徒の学び直しを可視化する。	①特進クラスの在り方を再確認する。 ①特進クラスの学習内容などを工夫し、レベルを上げる。 ②学び直しの必要なレベルをスタディサプリ等で、可視化する。	①検討する機会を設けたか。 ①特進クラスの学習内容について教科単位での検討が行われたか。 ②可視化して、生徒の学習指導に反映割合。	①特進検討委員会を設置し、１月３０日までに２３回の会議を開催する。 ①サブテキスト、朝学習、資格取得等を教科で検討する。 ②到達度テストの結果より、昨年より低下傾向である。	A	①大学クラスが創設された。その運用を学年ではなく、学校全体で行っていく。 ②スタディサプリを利用することによって、生徒に学力の向上をどのように実感させるかが、課題である。	・しっかり学び直しをすべきである。生活習慣を見直し、進路を見据えた上で学習に繋げるべき。 ・生徒の進路実績は評価に値する。 ・大学クラスは希望であり、楽しみでもある。大学クラスを設置予定とのことで進学に力を入れている印象が強い（中学生の声） ・授業は、同科目でも先生方それぞれの個性のある授業で羨ましい（習熟度別）
		①高い志を持たせる。 ②生徒の進路実現を支援する。	①ガイダンスなどで自分について考え、面談等を通して、生徒の適性を把握し、生徒にあった進路志望を持たせる。 ②進路実現に向け、面談等の支援を行う。	①スタディサプリの活用。 ①到達度テストの結果の向上。 ②大学等合格者数増加。医療看護系などへの進学者数増。 ②就職希望者への指導の充実。	①活用率が前年度に比べ低下している。 ①３年生の結果が極端に低下している。 ②大学進学者数は昨年度に比べ２６名減少 ②就職希望者が昨年に比べ２５名増加し、全員が内定している。	C	①学力向上の実感を生徒にどのように与えるかが課題である。 ①社会に出て基礎学力の必要性をどのように生徒に伝えるかが課題である。 ②１年より、大学進学の意義を教員、生徒に浸透させる。	
3	〔現状〕 臨時学級増の影響もあり現１年生は定員を満たせずスタートした。 学校行事は新型コロナ感染症拡大防止のために全校での実施を見合わせている。 〔課題〕 ・生徒を積極的に地域に出ていくように仕向け、生徒の活動を通して、本校の良さを伝える。 ・情報発信を積極的に行い、現在持つ本校の魅力を伝える。 ・新型コロナによって、変更された行事を従来の形に戻す。 ・学校運営を考え、男女比のバランスが均等になるようにする。	①地域活動に積極的に参加する。 ②本校ホームページ、メディアを活用し、情報発信を行う。	①部活動や近隣学校交流会などの地域交流など、生徒の活動を促進する。 ②情報提供などにより保護者の本校理解度を向上させる。	①地域との交流会数及びアンケートによる満足度。 ②学校評価アンケートの結果。	①生徒会本部役員が、市制 50 周年記念事業を始めとして、子供フェスティバル、富士見ふるさとまつり等にボランティア参加、書道部がふじみ野小で書道パフォーマンスを実施する。 ②教育方針は８０％以上が理解し、情報発信も８０％は理解されている。	B	①富士見市と連携する部署を複数化する。 ②ホームページ、一斉メール、Google クラスルーム、スタディサプリ等の複数の情報発信方法の精査をする。	・書道部の全国大会出場に対する同窓会の支援を検討します ・今回（東中から）２桁の生徒が受検するが、地元との繋がり、結びつきを大事にしながら高校教育を邁進してくれている。 ・駅から遠いので人気減少に繋がりやすいが生徒は充実感のある学校生活ができている様子がある ・駅からのバス路線を整備すべきではないか。 ・隣の学校で校庭の様子からひたむきに部活動をしている様子が見て取れ、先輩方のように活動したいと言っている生徒がいる ・生徒の良さを見出した上での指導をお願いしたい。 ・トイレの改修等校内の整備が必要ではないか。
		①コロナ以前の学校行事を徐々に再開していく。 ②本校志願者の質と量の確保をする。	①文化祭をはじめとして、学校行事は感染対策を行い、実施していく。 ②学校案内など広報紙を更にブラッシュアップし、積極的に広報活動を行う。	①学校行事の実施状況。 ②学校説明会・体験入学・個別相談等の参加者数の増加。 ②入学志願者数増加、特に女子の志願者が増加したか。	①楓樹祭、体育祭、マラソン大会を公開及び全校で実施する。 ②申込数は、部活動体験以外低下している。 ②１２月現在での中学生志望状況は低下している。	C	①コロナ前の実施形態に戻し、学校行事を通して、生徒の学校帰属意識を高める。 ②説明会を県内最初に行い、中学生に早めに富士見高校を意識させる。	